

湾岸諸国でのインド人移民 労働者の暮らし

—南インド、タミル・ナードゥ州からUAEへ—

2017年5月、ザンビアへ渡航する際、北京(中国)ーアディスアベバ(エチオピア)ールサカ(ザンビア)間の移動で、はじめてエチオピア航空を利用した。この行程で驚いたのは、北京ーアディスアベバ間の乗客の95%以上、もしかしたら98%以上が中国人男性で、これからアフリカ諸国で移民労働者として働くと思われるような人たちばかりであった。そんな中、以前調査で出会った湾岸諸国へのインド人移民労働者もこんな感じで移動しているだろうかと頭をよぎった。

タミル・ナードゥ州の移民労働者

タミル・ナードゥ州農村部で生業や生活に関する聞き取り調査をしていると、『石を投げれば移民労働経験者に当たる』ではないが、本当にたくさんの方が移民労働を経験していた。移民労働経験者の多くは一時帰国中で、また直ぐに移民労働に出るといった者が多かった。また、時には、父親が移民労働経験者であるとか、これから初めての移民労働に出るといった青年に出くわすこともあった。移民労働者の渡航先はサウ

ジ・アラビア、アラブ首長国連邦(以下、UAE)といった中東諸国を主として、シンガポール、マレーシアといった東南アジア諸国も含まれていた。彼らは移民労働者を斡旋するエージェントを窓口にしたリ、既に海外で出稼ぎを経験したことのある人のツテ(親族関係、友人関係、同村、同宗教)を頼ったりして移民労働に行くそうだ。移民労働者を斡旋するエージェントは、タミル・ナードゥ州だけでもそれは星の数ほど存在するらしい。各エージェントはうたい文句を添えた広告を新聞などで宣伝し、移民労働者をリクルートする(写真①)。中には、知識のないものに法外な価格をふっかけたり、渡航前に示されていた条件とまったく異なる環境での労働や職種に就かされることもあったりと、詐欺紛いのエージェントもあるらしい。移民労働者の移民先国で

90

FREE RECRUITMENT - SAUDI ARABIA
VACANCIES IN LARGE NUMBERS / SPOT SELECTION / DEPARTURE WITHIN 15 DAYS
CLIENT INTERVIEW IN CHENNAI ON 6th MAY, 2014 (TUESDAY) FROM 8.00 AM to 6.30 PM
INTERVIEW "TCT OFFICE" 'Z' House, No. 116, Bolis Road, Chepauk,
CHENNAI - 600 005. Opposite to New GHOSHIA HOSPITAL, Chennai 600 005.
Contact : 9176639842 / 9176639843
• PIPE FABRICATORS (GCC Exp. Only) • PIPE FITTERS (GCC Exp. Only) • DCS TECHNICIANS
• ELECTRICAL ENGINEERS (COMMISSIONING) • ELECTRICAL TECHNICIANS
• INSTRUMENT ENGINEERS (COMMISSIONING) • INSTRUMENT TECHNICIANS
• PERMIT RECEIVERS (ARABCO CARD HOLDER) • FIRE ALARM TECHNICIANS
• HVAC TECHNICIANS • MACHINIST • FIRE & GAS TECHNICIANS
All Candidates Should have Min 5 Yrs. of working Exp. in Oil & Gas, Petrochemical & Refinery Projects. Candidates having GCC Exp. will be Preferred. Bring the following documents at the time of interview: ORIGINAL PASSPORT • BICOGATA • Original Degree • Original Diploma • Original EIL • 10th Standard Pass Certificate • Exp. Certificate • Passport Size Photographs. CANDIDATES WITHOUT THE ABOVE SPECIFICATION WILL NOT BE INTERVIEWED BY THE CLIENT. We Guarantee that the Client will see all the Candidates.
COMPANY OFFERS GOOD SALARY • FREE FOOD • FREE ACCOMMODATION • FREE MEDICAL INSURANCE • FREE TRANSPORTATION • 24 HOURS DUTY • 100% OTHER BENEFITS
Apply Immediately to : **TRIALINE CONSULTING**, TRIALINE HOUSE,
International Recruitment, Outsourcing & Consultants / Service/REG. Certificate No. S-0217 / BAO / PER / 1000-11/12/11/14
Email : saudijobswithtct@gmail.com

写真②森で見かけた絵、この絵は無言

の職種は、建設現場の労働者、電気工、配管工、運転手、商店の店員、料理人、ホテル従業員、石油会社、庭師と幅広く、労働者の学歴や専門によって大きく異なる。彼らと話したり家を訪ねたりして感じたことは、同じ移民労働経験者でも帰国後の生活環境がこんなにも違うのかということであった。職種によって給料が異なるだろうし、その人の性格が浪費する人であるかどうか、商才があるかなどが関係するので、よく考えてみると当たり前のことなのだけれども、帰国後の職業、家、身なり、子どもの教育環境が大きく異なっていた。また、彼らのいくらかは海外生活の影響で考え方に変化が生まれていた。例えば、新築の家を建設したものは住居の周辺で家畜を飼うのは新しい家にそぐわないという理由から、家畜飼養をやめた。野外でトイレをしにくくなったため、新居にトイレを設置し、屋外での排泄行為をやめた。出稼ぎに出た父親が教育熱心になり、子どもたちに高い学歴やホワイトカラーの職をもとめ、家業であった農業に見向きもしない世帯が増加した。など、農村部の生活環境は大きく変化したようだ。

一路 UAE へ

そうなる我々は、なぜ考え方が変わってゆくのか、その背景にある移民先国ではどのように生活

し、どのようなコミュニティ形成をし、どのような仕事をしているのかに興味はわきはじめた。そこで、我々はある人物、といっても共同研究者ジェガディーサン・ムニアンディの兄Aさんを頼りに移民先国で聞き取り調査をおこなうべく、一路 UAE、アブダビへ向かったのは2014年のクリスマス直前のことである。

さすがに、タミル・ナードゥ州で出会った移民労働経験者を UAE で探すわけにもいかないのので我々は、Aさんを起点にスノーボールサンプリング（調査対象者から、次の対象者を紹介してもらいながら進める調査手法）を開始し、聞き取り調査を始めることとした。しかし、Aさんとの打ち合わせで、農村でのインタビューと異なり移民労働者は日中それぞれの職場で労働しており、なかなか簡単にインタビューに行くことができないことが判明した。我々のこれまでの調査は農村を訪ね、農家さんの休憩時や、作業を少し中断してもらっての聞き取りが中心であった。農家さんはおおかた個人事業主なので、自分で休憩を取ることもできるし、作業も中断することができる。しかし、移民労働者たちは自分の都合で建設工事を中断したり再開したりすることができないのだ。考えてみればごくごく当たり前のことなのだけれども、これまでの農村での調査は環境に恵まれていたのだなと感じた。打ち合わせの結果、イスラームが国教である UAE で

は金曜日が礼拝日で休日になるため金曜日の終日あるいはその他の平日の就業後に聞き取り調査に行くことになった。

アブダビ市街にて

日中時間のできた我々は、市街へ散策に出た。UAE 全人口9,456,628人のうち8,371,864人(88.5%)が外国人であり、2,600,000人(27.5%)がインド人(Abu Dhabi 2016)というだけあって、アブダビでもいたるところでインド人と思われる人を見かけた(写真②)。街中のスーパーマーケットの一角にはインド人移民の胃袋を満たすべくあらゆるインド食材が並んでいた(写真③)、鮮魚売り場ではタミル・ナー



写真②街で見かけた南アジア系の人

ドゥ州出身のインド人移民労働者に出会ったりした。その鮮魚売り場のインド人移民労働者と雑談がてら出稼ぎの経緯等を聞かせてもらおうと、技術者として働けるとエージェント経由で出稼ぎに来たものの、実際は鮮魚売り場で魚をさばいているということであった。なんともひどい話であるがこのようなことは日常茶飯事であるらしい。話しが飛ぶが、産油国だけにガソリンの価格は1.75Dh = 64.96円¹⁾と非常に安かった。

移民技術者宅訪問(ドバイ)

突然、A氏が「友人のインド人移民技術者と会えるから、明日、ドバイへ行こう」と言いました。どうやら、翌日は金曜日で仕事が休みだか



写真③スーパーに陳列されるインド食材

ら、ドバイに住むタミル・ナードゥ州出身の移民技術者B氏の家に連れて行こうと考えたようだ。アブダビからB氏の家まではA氏が運転する車で移動した。政治のアブダビ、経済のドバイといわれるようにアブダビからドバイへ行くと経済発展するドバイの高層ビルの高さや多さ、そしてその街並みの変化に圧倒された。B氏の家に行ってまた驚かされた。高級マンションの一室を賃貸し、子供部屋に両親の寝室、十分な広さのリビングには壁掛けテレビとスピーカー、水槽には熱帯魚が泳いでいたのだ。B氏の家にはもうひとり友人のC氏が来ていたのだが、その人も同様の生活をしているという。彼らの生活は、私が思い浮かべていた移民労働者の生活とはまったくかけ離れているものだった。移民労働者を斡旋するエージェントの新聞広告などとは別に、企業の求人広告などもあるようだ。インドで技術者として働いていた彼らはそういった求人に応募して、このような移民技術者としての地位を確立したらしい。さらに、この調査中に聞き取りできたインド人移民技術者の平均賃金は月額7,500Dh ≒ 278,400円 (n=10) と高給であった。インド国内の製造業、エンジニアの平均月収US\$487 ≒ 50,526円^{*2} (ジェトロ 2016) と比較して約5.5倍もあることから、出稼ぎに必要な初期投資を考えても魅力的なものである。

労働者キャンプ訪問(アブダビ)

ドバイでの驚きをぬぐえないまま、翌日は、A氏が働いている会社の一つの建物が移民労働者で占められている移民労働者キャンプを訪れることとなった。

市街から少し離れたところにある労働者キャンプは想像していたものに近く、いわゆる男子寮っぽい、ドミトリーホテルっぽいものであった(写真④)。定員は6名ほどで、同じ地域出身者が同室になるように配慮されていた。室内での彼らの個人スペースはベッドとその周辺という感じで、共有部分と思われるところにはお茶セットと簡単な調理器具、部屋によっては祭壇があった。バス・トイレ・キッチンが共有でバスとトイレは建物の外に、キッチンでは自由に調理ができるようだ。娯楽としてのクリケット大会も模様されていた。

翌日は、建設現場で働く労働者の終業を待ち、政府が建設したキャンプを訪問した。彼らのキャンプは市街から約20kmはなれたところがあり、周辺は砂漠に覆われている労働者キャンプビレッジであった。労働者キャンプビレッジには団地のように移民労働者キャンプが立ち並び、様々な会社に所属する移民労働者が毎日バンやバスの送迎で仕事場とキャンプを往復する(写真⑤、⑥)。こちらの定員は10名ほどで、前日訪問したキャンプ同様にベッド周辺とロッカーが個人

スペースであった。大きく異なるのは、政府が建設したキャンプでは、肉食と中食が禁止されていることであった。そのため、キャンプで提供される食事以外のモノを食べたい場合には、キャンプビレッジの敷地外で飲食しなければならないことである(写真⑦)。また、敷地内のセキュ

リティはしっかりしており、我々が敷地内に入るときには身分証明書を入り口セキュリティに預けた。市街への送迎は仕事のある日のみで、休祝日にはキャンプビレッジ内か近くにあるショッピングセンターで過ごすことが多いそうだ。



写真④労働者キャンプの1室の中



写真⑥労働者キャンプビレッジの周りにとめられている送迎車



写真⑤送迎車とそれに乗り込み帰宅する労働者



写真⑦労働者キャンプビレッジの敷地外で食事をする労働者たち

移民労働者の実態

キャンプとキャンプビレッジを訪問し感じたのは、それほど劣悪な環境ではなさそうだということである。もちろん、大企業の移民労働者キャンプと政府が建設したキャンプのみの訪問だったため、そのように感じたのかもしれない。もし次回 UAE を訪問する機会が得られれば、先述のスーパーマーケットで魚をさばいていた人やその他にインタビューをすることができた、企業へ属さないような移民労働者たちが住まうところへも訪問できればと思う。

また、海外生活の影響による教育や労働、トイレ環境に対する考え方の変化がなぜ生まれるかについては明らかにすることができなかった。しかし、先にあげた移民技術者のような生活をすると、帰国後に農村で普通の暮らしに戻ることは難しいのではないかと考えられる。今後、調査の機会があれば、生活の変化についての理解を深めたいと考えている。

最後に、移民労働者の最大の目的の一つと考えられる仕送りについて触れる。仕送りは個人的なルート、両替商、銀行、郵便局などを通じておこなわれる。聞き取りをおこなった移民労働者のうち、移民技術者 10 名を除く 41 名の平均給料は 1,872 Dh (69,487 円) で、彼らは平均して毎月 1,270 Dh (47,124 円) の仕送りをおこなっ

ていた。これは給料の約 70% に相当し、非常に高額であると考えられる。「そんなに仕送りをしているなら残ったお金は自由に使えるね」と言ったときに、彼らは「そのほとんどが家族への電話代で消えるよ」と笑いながら答えた。そのときの笑顔は今も忘れられない(写真⑧)。

宮寄英寿

ムニアンディ・ジェガディーサン

[引用文献]

AbuDhabi2 (2016), UAE POPULATION BY NATIONALITY (<http://www.abudhabi2.com/uae-population-by-nationality/>)
2017年8月28日アクセス

*¹ 2014年12月の AED (UAE ディルハム) の交換レートは 1 Dh = 37.12 円であった。

*² 2016年10月の US\$ の交換レートは 1 US\$ = 103.75 円であった。

*³ 2014年11月の IND (インディアンルピー) の交換レートは 1 Rs = 1.92 円であった。

